

令和 5 年度 大分県 英語教育改善プラン

目標

子どもたちのコミュニケーション力を育む「教員の確かな英語指導力の育成」

1. 現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標
- ・設定している学校
R3 : 89.6%→R4 : 98.4%
 - ・公表している学校
R3 : 16.5%→R4 : 48.6%
 - ・把握している学校
R3 : 61.4%→R4 : 78.5%

未だ改善が必要な点

- ①小中連携を実施している学校
- R3 : 65.3%→R4 : 67.8%
 - ・情報交換
R3 : 58.5%→R4 : 58.5%
 - ・交流
R3 : 48.3%→R4 : 53.4%
 - ・カリキュラム
R3 : 19.5%→R4 : 16.9%

2. 分析

- ①小学校英語指導力向上事業の実施
- ・小学校英語教育推進校を核とした英語指導力の向上・普及を図ることができた。
 - ・実施した公開授業を各学校に還元するなど、校内研修の充実を図ることができた。
- ①小学校英語指導の手引きの作成
- ・CAN-DOリスト形式による学習到達目標の作成例を公開し、モデルを示すことができた。
- ①小中連携の推進
- ・小学校・中学校の公開授業を相互に参観する機会が少ない。
 - ・作成した学習到達目標を、小学校・中学校が互いに見合い、つなげる機会が少ない。
 - ・中学校へつなげるため、小学校で目指す資質・能力を確実に身に付けさせるための指導力が十分ではない。

3. 施策・事業

【目標】

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標
設定 : 100%、公表 : 50%、把握 : 80%
- ①小中連携を実施している学校 : 70%
情報交換 : 60%、交流 : 60%、カリキュラム : 30%

【施策・事業】

- ①小学校英語指導力向上事業の継続
- ・学習到達目標の作成・活用。
 - ・民間テストの分析結果に基づく公開授業の実施。
 - ・APU留学生との交流（希望する学校）。
- ①未来を創る授業力向上協議会（小外国語）の実施
- ・授業づくりと学習評価に関する行政説明、協議、講義。
 - ・参加者は、得られた知見を推進校の公開授業に生かす。
- ①小学校英語専科教員協議会の実施
- ・県内全ての小学校英語専科教員が参加する協議会を年間2回実施。
 - ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに関する説明・協議を行い、専科教員の指導力向上につなげる。
- 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組
- ・選考区分に小中学校連携教諭（英語）と中学校教諭（英語）を併せて出願できる併願制度を設置。
 - ・小学校教諭の実技試験を英語のみとし、配点を引き上げ。

令和 5 年度 大分県 英語教育改善プラン

目標

生徒の英語力の向上と教員の確かな英語指導力の育成

1. 現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標
- ・設定している学校
R3 : 97.5%→R4 : 100%
 - ・公表している学校
R3 : 32.2%→R4 : 66.1%
 - ・把握している学校
R3 : 72.9%→R4 : 81.4%

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒
R3 : 38.7%→R4 : 44.3%
- ②小中連携を実施している学校
R3 : 65.3%→R4 : 67.8%
- ・情報交換
R3 : 58.5%→R4 : 58.5%
 - ・交流
R3 : 48.3%→R4 : 53.4%
 - ・カリキュラム
R3 : 19.5%→R4 : 16.9%

2. 分析

- ①中学校英語指導力向上事業の実施
- ・中学校英語教育推進校を核とした英語指導力の向上・普及を図ることができた。
 - ・推進校において民間テストを実施し、推進校における生徒の英語力につなげるための課題を把握することができた。
 - ・全ての中学校英語科教員が推進校の公開授業に参加し、授業改善を推進することができた。

- ①生徒の確かな英語力向上を育成するための授業改善の推進
- ・学習指導要領の趣旨の実現につなげるための、目指す授業をイメージできていない。

- ②小中連携の推進
- ・小学校・中学校の公開授業を相互に参観する機会が少ない。
 - ・作成した学習到達目標を、小学校・中学校が互いに見合い、つなげる機会が少ない。

3. 施策・事業

【目標】

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標
設定 : 100%、公表 : 70%、把握 : 85%
- ①CEFR A1レベルの英語力を有する生徒 : 50%
- ②小中連携を実施している学校 : 70%
- 情報交換 : 60%、交流 : 60%、カリキュラム : 30%

【施策・事業】

- ①①中学校英語指導力向上事業の拡充
- ・中学校英語の指導教諭が在籍する学校を、中学校英語教育推進校に指定。
 - ・指導教諭・県指導主事による中学校英語指導力向上会議を実施し、英語教育の課題を整理すると共に、英語力育成のための戦略を立てる。
 - ・代表の指導教諭による授業を撮影し、動画をWebサイトに掲載。
 - ・各中学校 1 名ずつ参加し、中学校英語指導力向上協議会を実施。授業動画を視聴し、協議・演習を行う。
 - ・各中学校 1・2 年を対象に民間テストを実施し、授業改善を進めることができたかどうかを生徒の姿で確認する。
 - ・指導教諭が在籍する学校に、加配教員を配置。
- ②小中連携の推進
- ・小学校英語教育推進校が実施する公開授業に、中学校教員が参加するよう働きかける。

令和5年度 大分県 英語教育改善プラン

目標

生徒の英語4技能5領域を育成するための指導方法と評価方法の改善と構築

1. 現状

改善が進んだ点

①「スピーキング及びライティングテストの両方実施」
45.1% (R3 41.5%)

未だ改善が必要な点

①「生徒の英語力 CEFR」
A2レベル相当以上」
45.9% (R3 46.5%)
「B1レベル相当以上」
13.2%

2. 分析

○高等学校英語力向上プランの実施

- ①年2回の教員対象の全体研修会を通してパフォーマンステストの理解と実施の促進につなげることが出来た。
- ①県内のすぐれた実践を収集し、授業づくりと評価に関する実践事例集を作成することができた。

- ①「聞く」「読む」の言語活動の充実を目指した授業実践の共有がさらに求められる。
- ①CAN-DOリストとCEFR A2レベル及びB1レベルの連動性をより意識した評価につなげることが求められる。
- ①教師の英語力は全国の目標に到達してるが、それを授業に活かし、生徒の英語力の向上につなげることができていない。

3. 施策・事業

- ①生徒の英語力 (A2相当以上50%、B1 16%)
- ①パフォーマンステスト (S/W両方) の実施 50%
- ①生徒の英語使用による言語活動 (授業の半分以上) 55%
- ①CAN-DOリストによる把握 80%

【施策・事業】

- 民間テストを活用した英語指導力の向上と評価方法の改善
 - ・CAN-DOリストを指導と評価に位置づける
 - －CEFR A2、B1レベルに基づいた評価問題の作成と実施
 - ・中高合わせたCAN-DOリストのモデル作成
 - ・教員研修を通じたパフォーマンステストの理論と実践の理解の促進
 - ・指導と評価の一体化を目指した実践事例集の普及・活用の促進
- 言語活動の充実と評価問題の改善
 - ・「聞く」「読む」の言語活動の実践事例を収集
 - ・「聞く」「読む」を測るテスト問題の共有
 - ・授業づくりデザインと評価問題の一体化を示した実践事例集の作成
- 英語科の「探究的な学び」の構築
 - ・推進チームによる「探究的な学び」の実践による言語活動の充実
 - ・推進チームによる公開授業
 - ・「探究的な学び」の取組の県内への普及